

写真1. 気管支・肺の組織像 (+/+マウス, 0ppb)

左：肺組織の中央に赤紫色に染まる粘液を満した気管支腔がみられる。PAS 反応 10×3.3

右：拡大、気管支腔に向かって粘液を分泌している多数の気管支杯細胞がみられる。

PAS 反応 40×3.3

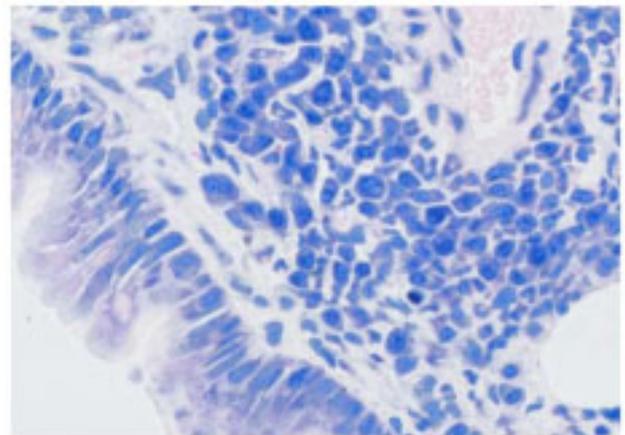
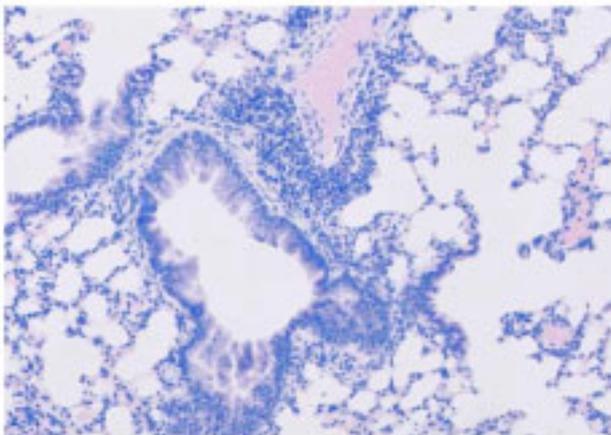


写真2. 気管支・肺の組織像 (+/+マウス, 0ppb)

左：肺組織の中央部に気管支腔と血管がみられ、それら周囲の間質に炎症細胞の浸潤がみられる。

Giemsa 染色 10×3.3

右：拡大、主に好酸球・形質細胞・リンパ球の浸潤がみられる。Giemsa 染色 40×3.3

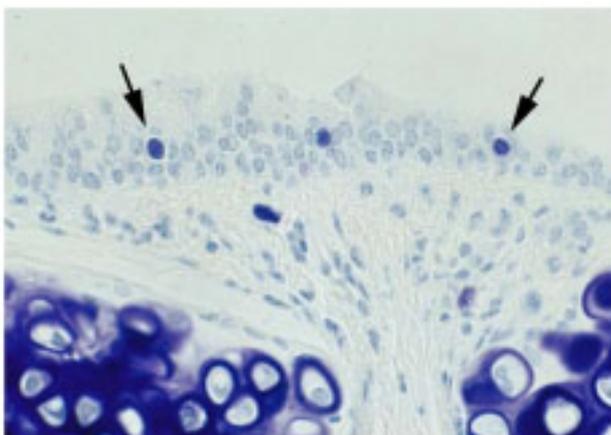


写真3. 気管上皮の組織像 (+/+マウス, 2000ppb)

気管上皮内に紫色にそまる肥満細胞 (矢印) が散見される。

Toluidin blue 染色 40×3.3



写真4. 皮膚の肉眼像 (W/Wvマウス, 2000ppb)

頭部から背中にかけて広範な脱毛がみられ、脱毛部の皮膚は硬化して、搔爬により一部に出血がみられる。

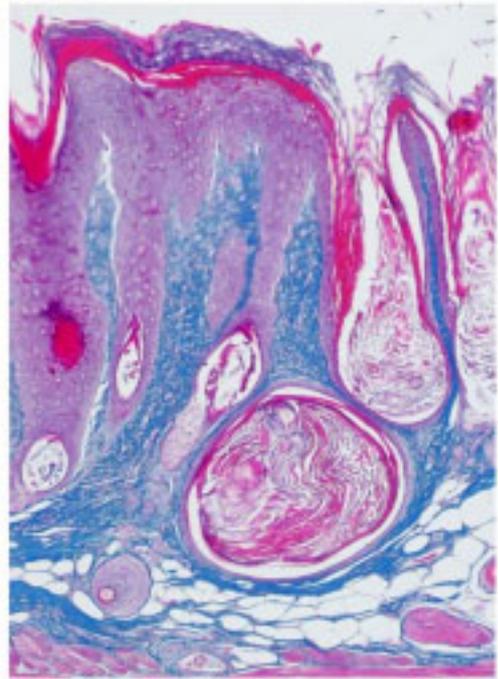
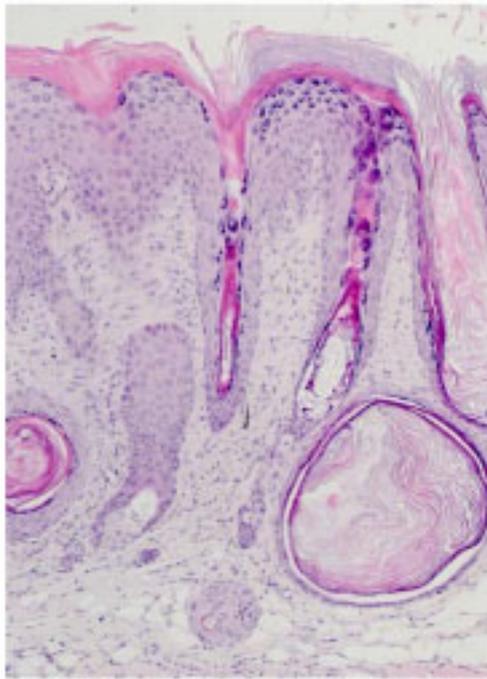
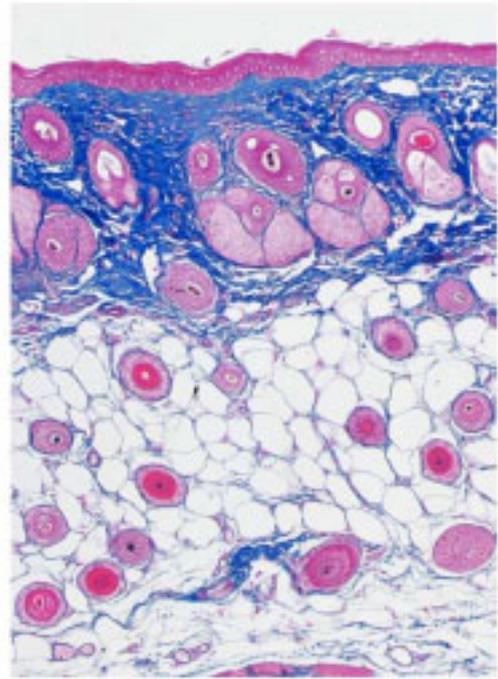
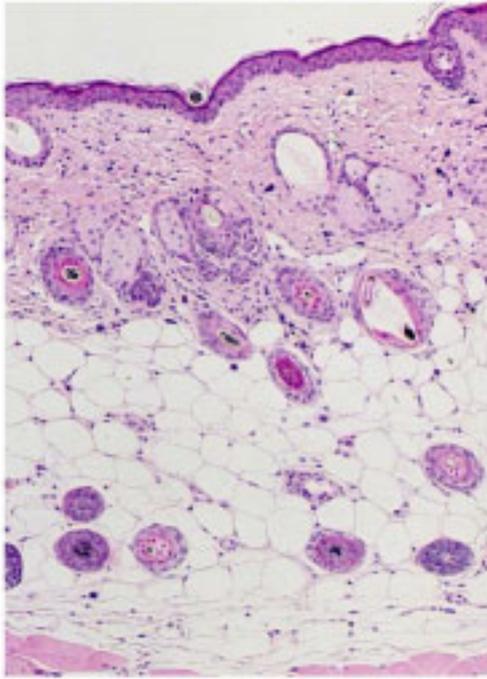


写真5. 皮膚の組織像

上: +/マウス, 0ppb (左)HE染色 (右)Azan染色 各 10×2.5

上方より3~4層の重層扁平上皮よりなる表皮、続いて主に膠原線維よりなる真皮、脂肪組織、筋層の順にみられる。真皮と脂肪織内に点在する円形構造は毛包である。膠原線維はAzan染色で青色に染色されている。

下: W/Wマウス, 2000ppb (左)HE染色 (右)Azan染色 各 10×2.5

表皮は過角化を伴って肥厚しており、真皮の膠原線維も増加している。残存する毛包内では角質物質の蓄積による角栓形成がみられる。

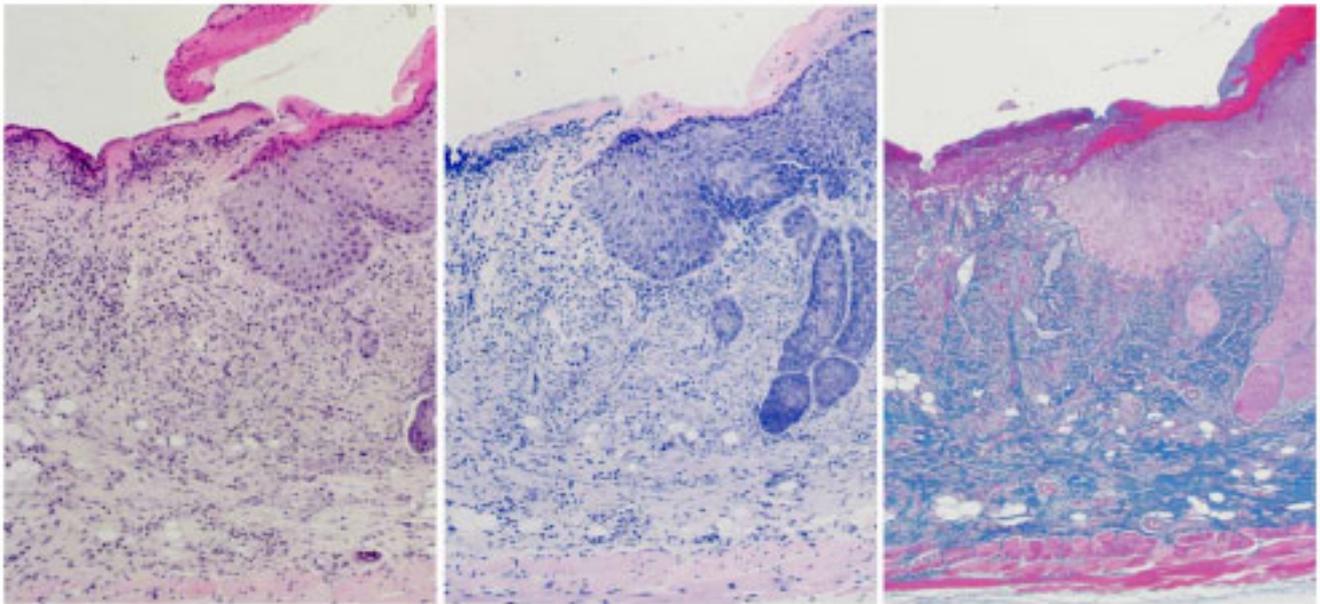


写真6. 出血部皮膚の組織像 (W/Wvマウス, 2000ppb)

左: HE 染色 中央: Giemsa 染色 右: Azan 染色 各 10×2.5

肥厚した上皮が途中から欠損している。欠損部は表面から壊死層、浸出層、肉芽組織層へ移行している。浸出層の炎症細胞は好中球が主体で好酸球は目立たない。真皮には著明な膠原線維の増加がみられる。

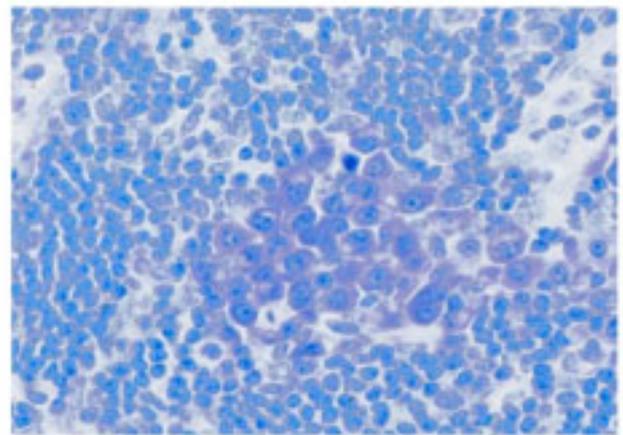
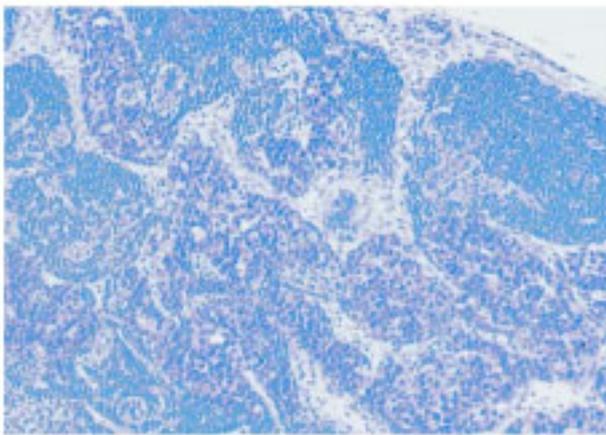


写真7. リンパ節の組織像 (W/Wvマウス, 2000ppb)

左: 多数のリンパ濾胞と膨大した髄索がみられる。 Giemsa 染色 10×3.3

右: 拡大, リンパ濾胞は小型のリンパ球よりなり、髄索には大型で細胞質がやや紫色に染まる形質細胞が多数みられる。 Giemsa 染色 40×3.3

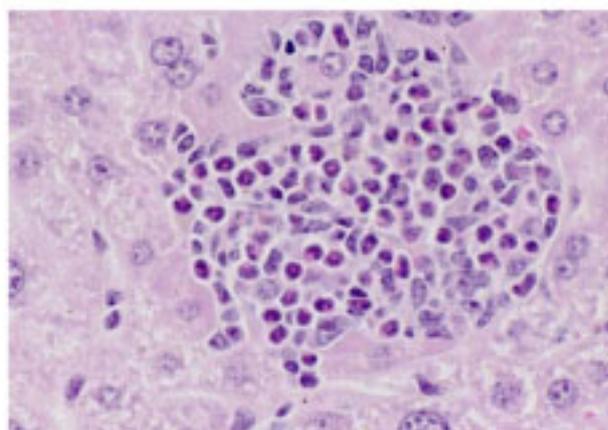
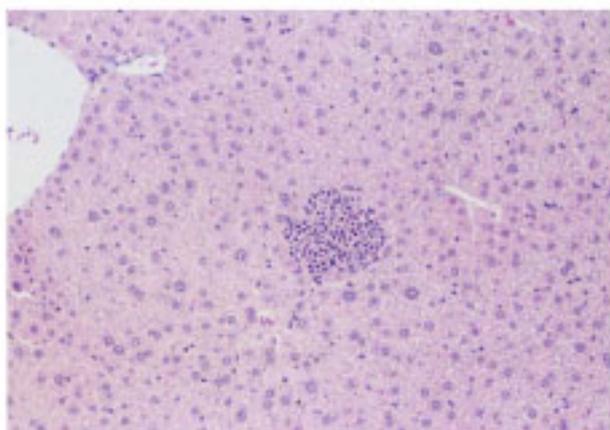


写真8. 肝臓の組織像 (W/Wvマウス, 0ppb)

左: 肝小葉内に炎症細胞の集簇がみられる(中央)。 HE 染色 10×3.3

右: 拡大, 炎症細胞は好酸球・形質細胞・リンパ球よりなる。 HE 染色 40×3.3

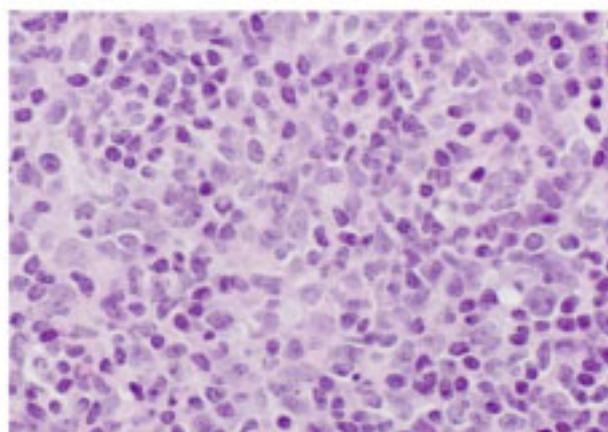
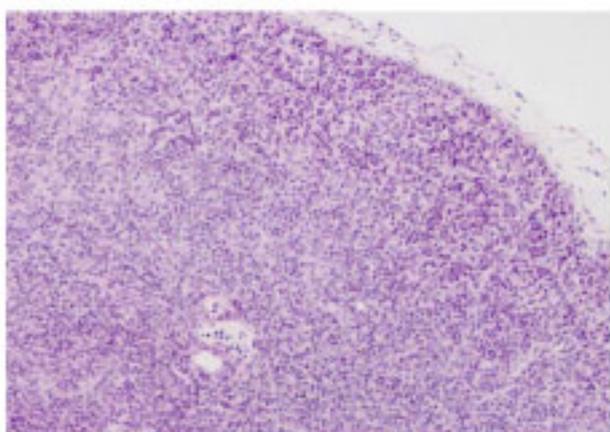


写真9. 胸腺の組織像 (W/Wvマウス, 2000ppb)

左: 皮質は狭小で小葉構造は不明瞭である。 HE 染色 10×3.3

右: 拡大, 髄質ではリンパ球やリンパ芽球様細胞に混じて好酸球、形質細胞がみられる。

HE 染色 40×3.3

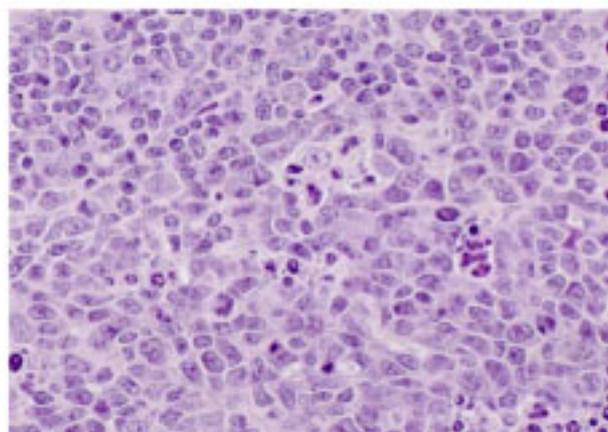
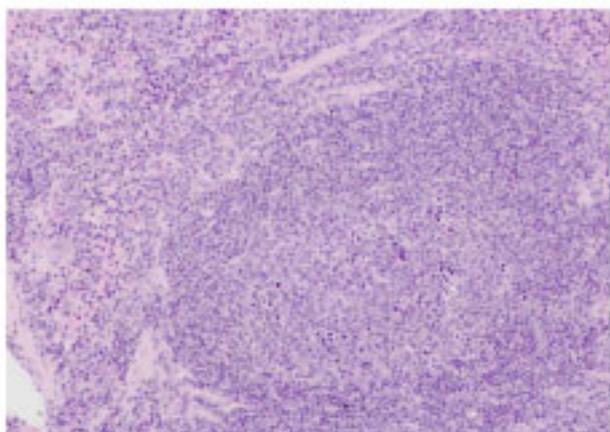


写真10. 脾臓の組織像 (W/Wvマウス, 2000ppb)

左: 白脾髄に胚中心を有したリンパ濾胞がみられる。 HE 染色 10×3.3

右: 拡大, 胚中心や濾胞辺縁体には、好酸球や形質細胞が散見される。 HE 染色 40×3.3